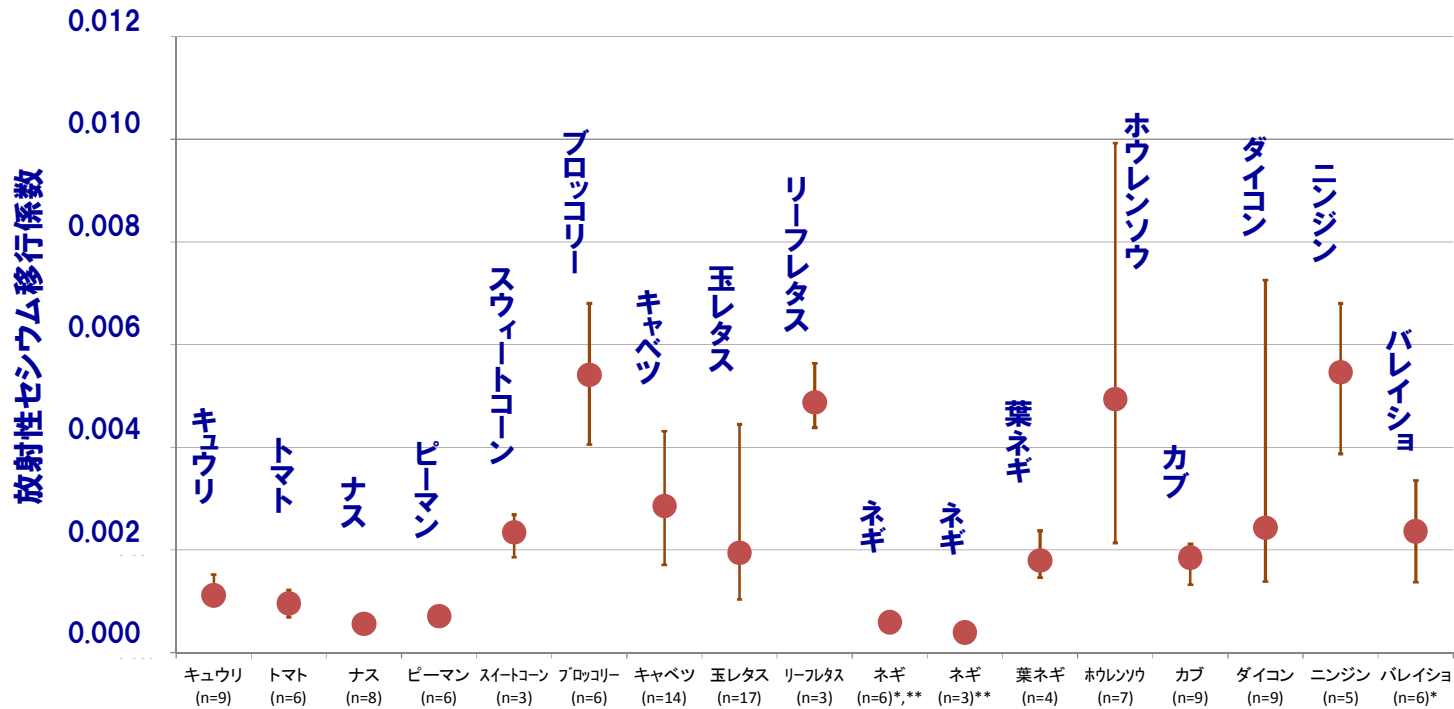


浪江町 代掻きが重要



各種夏野菜への土壌中の放射性セシウムの移行係数



- 黒ボク土畑において2011年に栽培した夏作野菜15品目への放射性セシウムの移行係数は、0.0004～0.0055である。
- 野菜類への移行は全般的に少なく、特に果菜類の係数は低い傾向にある。

(農研機構ホームページより抜粋)

苺の初出荷



「検査しています」

「安全です」

生産者の都合

産地表記

検査数値表記

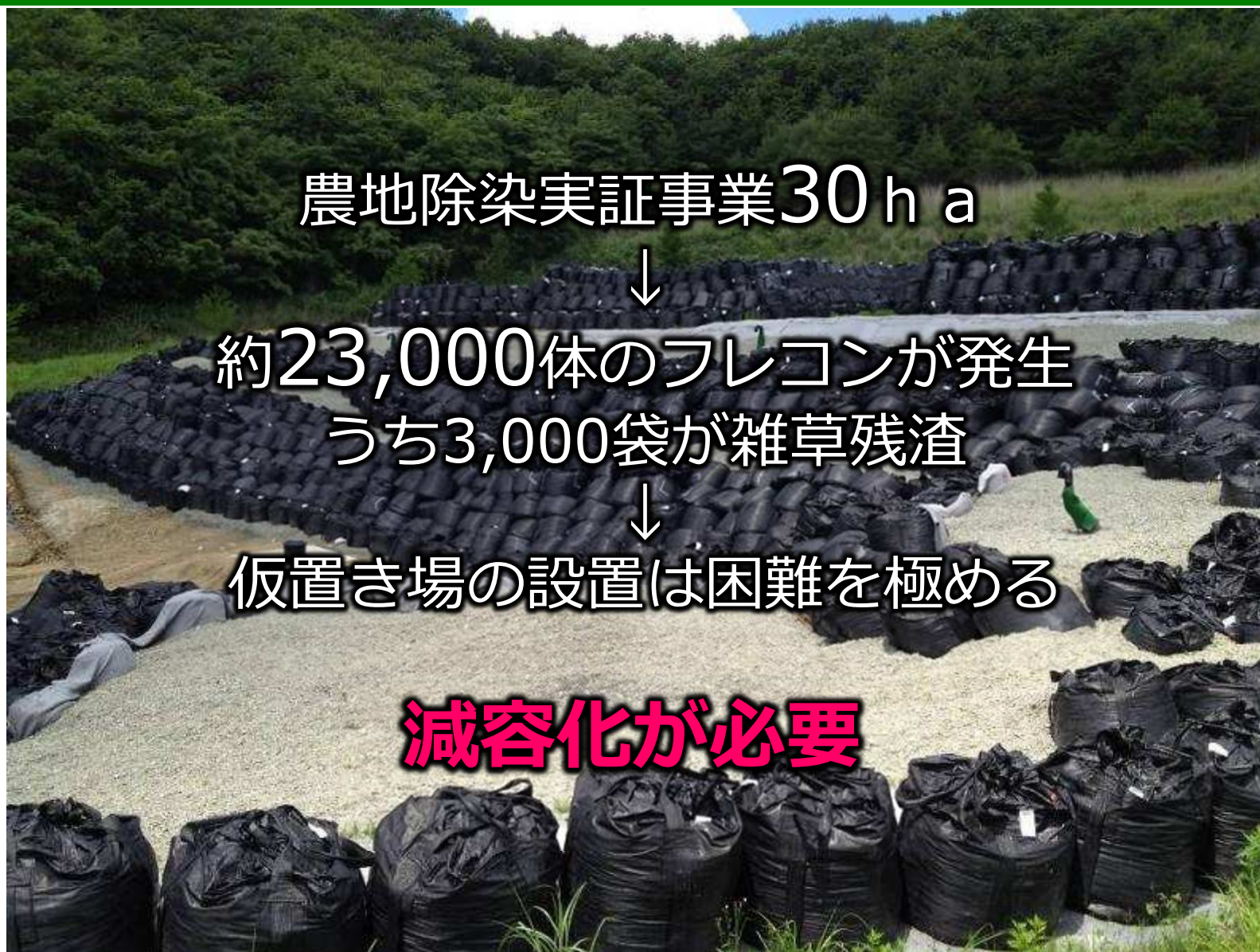
消費者が選択できるようにしなければ信用されない

除染で発生する大量の廃土（フレキシブルコンテナ）



農地除染により発生する大量の廃土
農地除染ばかりでなく、宅地除染、
森林除染でも大量の廃棄物が発生

仮置き場に苦慮



住民感情の理解、住民との距離感

- とにかく話を聞く
- わかりやすく、繰り返し説明、理解が深まるまで説明
- へこたれない
- **説明会は小さな括りから丁寧に**
- **リスクは隠さない**

次世代への情報・技術の継承は我々の責務

福島県の放射性物質汚染 被災地の現状と課題

放射性物質拡散からこれまでの現状、科学的な進展
と除染廃棄物処理、地域再生に向けて一公開講演会



日時 11月24日(月) 午後1時半
場所 長崎大学医学部ポンペ会館
会議室(坂本キャンパス)

- 13:30 開会の挨拶
長崎大学 山下徹一
- 13:40-14:10
福島県川内村における復興支援の取り組み
長崎大学原爆後障害医療研究所 高村昇
- 14:10-14:40 30分
福島県の放射能汚染地域の現状と農業再生に向けての課題
国際農林水産業研究センター 万福祐造
- 14:40-14:50 10分
セシウムの粘土への吸着
産業技術総合研究所 森本和也
- 14:50-15:20 30分
最先端科学技術により暴かれた福島の土壌にあるセシウムの実態
日本原子力研究開発機構 矢板毅
- 15:20-15:30 休憩
- 15:30-15:50 20分
除染と減容化における鉱物の役割
国際農林水産業研究センター 八田珠郎
- 15:50-16:10 20分
セシウムのホットスポットとしての調整池
産業技術研究所 鈴木正義
- 16:10-16:30 20分
エネルギー・資源循環型営農の方向性
農業・食品産業技術総合研究機構 薬師堂謙一
- 16:30-16:40 10分
産官学連合による研究の紹介
独立行政法人 物質・材料研究機構 山田裕久
- 16:40 総合ディスカッション。総評
長崎大学 山下徹一

先送りされる問題について、現状の把握、説明は我々の責務。
将来、何かあったときに何も対応出来ないことのないよう、将来を見据えた研究開発こそ望まれる。

放射性物質拡散からこれまでの現状と直轄除染エリアの除染廃棄物処理と農業再生に向けて



ご清聴ありがとうございました

ございました